

ひょうごの福祉

認め合い ともにつながり 支え合う みんなでつくる ひょうごの福祉

11

No.777

P2 特集

「ストップ・ザ・無縁社会」絆つなげる明日へつながる^⑳
生活困窮者自立支援制度施行から半年

P6 「ストップ・ザ・無縁社会」広がり! 全県キャンペーン

P7 みんなでつくるひょうごの福祉
各団体の強みを生かして困窮家庭を支援
～「子ども元気ネットワークひょうご」の取り組み～

P8 地域を駆ける! ワーカー物語
「地域のつながりづくりや見守り活動を広めたい!」
加東市社会福祉協議会
角田 久美子さん

P9 シニア世代のいきいきアクティブライフ
小さな集落でもみんなが集まればできることがある!
～「丸味げんき村」の取り組み～

P10 ひょうごの福祉NOW

P11 みんなの広場

P12 インフォメーション

11月は「児童虐待防止
推進月間」だよ!

太山寺
宝蔵院



この機関紙は赤い羽根共同募金配分金により発行しています。

上郡町

太山寺 宝蔵院



「ストップ・ザ・無縁社会」 絆つなげる 明日へつながる²⁹ 生活困窮者自立支援制度 施行から半年



平成27年4月1日より生活困窮者自立支援法が施行され、「安定した仕事に就けない」「心身が不調だ」「生活が苦しい」等の課題を複合的に抱えている世帯に対して、経済的自立と社会生活における自立に向けた支援が全国で展開されている。

今回の特集では、支援の中核として包括的な相談支援を行う自立相談支援事業の実施状況等を通じて、生活困窮者支援をめぐる現状と課題を考える。

生活困窮者 自立支援制度の概要

制度施行から半年が経過した生活困窮者自立支援制度は、「生活困窮者の自立と尊厳の確保」「支援を通じた地域づくり」を目標に掲げ、福祉事務所設置自治体を実施主体となつて、地域特性に応じた自立支援を官民協働で行うものである(図表1)。

このうち、必須事業としては、住民の多様な相談を一元的に受け止め、本人の意欲や状態により添いながら必要な支援をコーディネートする「自立相談支援事業」と、就職活動中の家賃補助となる「住居確保給付金の支給」がある。

また、任意事業として、本人の状況に応じた就労支援である「就労準備支援事業」「認定就労訓練事業(中間的就労)のほか、住居を失った人に衣食住を提供しつつ自立を支援する「一時生活支援事業」、家計管理に課題のある人を対象とした「家計相談支援事業」、生活困窮世帯の子どものための「学習支援事業」が実施

各事業の実施責任は自治体にあるが、住居確保給付金の支給を除き、相談支援のノウハウを有する民間団体等へ委託可能である。

■図表1 生活困窮者自立支援制度における支援事業(厚生労働省資料を一部加工)



自立相談支援事業の 実施状況

自立相談支援事業は、兵庫県内では21市が行政の直営により実施されており、7市が社協、1市が株式会社にて委託されている。町部については県が実施主体となるが、企業組合に事業が委託されており、広域で支援を実施している。

この自立相談支援機関には、「相談支援員」が配置され、経済的な課題だけでなく、相談者が抱えるさまざまな生活の困り事を聴き取り、本人の意向を尊重しながら自立に向けて必要な支援策を検討し、関係機関等と調整の下で支援計画(支援プラン)の作成を行っている。各支援策の利用状況等も把握しながら、切れ目のない相談支援を行う役割を担っている。

8月末日時点、県内の新規相談受付件数は3987件となっており、そのうち支援プランの作成に至ったのは540件(13.7%)である。また、この半年ですでに就労に至ったケースも256件あり、支援プランの作

成とプランに基づく支援の実施の効果が現れてきているといえる。

実際の支援の例

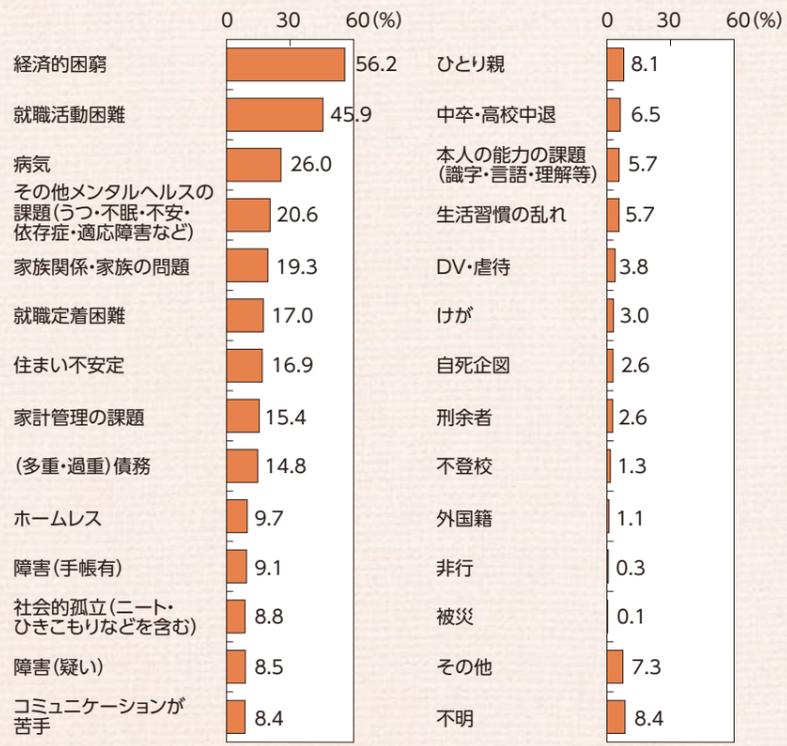
失業後、就職活動が思うようにならず、生活に不安を感じたAさん。自立相談支援機関への相談により、住居確保給付金をはじめとする公的給付の支給や、生活福祉資金貸付事業を利用して生活費の不安を軽減。さらに、相談支援員がハローワークと連携して就労支援が行われた。

相談の背景にある課題

「仕事が見つからず、生活費に困っている」との相談があつても、実際には就職活動と生活費の問題以外にさまざまな課題を抱えている場合が多い。

図表2は、平成25年度から国のモデル事業として自立相談支援事業を実施した116自治体における相談者の状況である。

■図表2 自立相談支援事業の利用者の状況
(複数回答、調査期間:平成25年8月1日~27年6月末日)



※みずほ情報総研株式会社調べ

利用者の課題に対する対応例

住まいの不安定…住居の確保
多重・過重債務…返済計画の見直しや整理
家族関係の問題…関係改善に向けた家族との面談
病気やメンタルヘルスの課題や障害…専門機関を交えどのような支援が適切なのか、生活保護の受給等も含めて調整を行う



プランに至るまでの支援調整

兵庫県内で平成27年8月末日までに作成された支援プランにおいて、一般就労(雇用契約に基づき一般企業等で働くこと)を目指す人は346件で、相談受付件数全体の1割にも満たない。

図表2の調査でみられた「社会的孤立(ひきこもり、ニート)」「障害(疑い)」「コミュニケーションが苦手」「中卒・高校中退」「生活習慣の乱れ」といった課題については、県内の相談でも実際に寄せられている課題である。本人からの相談もあるが、家族(特に親)が関係者(地域包括支援センター職員や民生委員)からの紹介で相談することも多いのが特徴である。

この場合、自立相談支援機関の支援員が本人と面談するまでにかかりの期間を要することがあるが、「何とかしないとだめだとは思って、どうしたらいいかわからない」といった本人の意向が確認できれば、支援の調整に入ることができる。

他制度の紹介や情報提供で支援が終了するケースもあり、一見するとプラン作成に至る件数が少ない



「就労準備セミナー」の様子(ファイ)

利用期間中の生活費の問題で就職活動せざるを得ないケースが見受けられる。自立相談支援機関の就労支援員と連携した支援が必要だと思つ」とファイの関谷修平さんは話す。

また、就労準備支援事業は、利用期限が1年間である。1年を超える支援が必要と見込まれる場合や、結果的に一般就労につながらなかった場合は、自立相談支援事業の就労支援員による継続的な支援や、自治体が認定した地域の事業者における就労訓練事業の利用をあっせんすることが考えられる。

ようにも見えるが、作成までの過程で、細やかな相談と調整が行われていることも、自立相談支援事業における重要な役割として評価する必要がある。

「任意事業」の実施状況は

社会との関わりを支援する

「就労準備支援事業」

必須事業である自立相談支援事業のほか、県内では図表3の任意事業が各市町で実施されている。

このうち、就労準備支援事業の対象者は、「複合的な課題を抱え、生活

■図表3 兵庫県内の任意事業の実施状況

就労準備支援事業	神戸市、姫路市、尼崎市、西宮市、芦屋市、宝塚市、川西市、兵庫県(町部)
一時生活支援事業	神戸市、姫路市、明石市、加古川市、西脇市、宝塚市、高砂市、川西市、三田市、宍粟市、加東市、たつの市、兵庫県(町部)
家計相談支援事業	姫路市、明石市
学習支援事業	神戸市、姫路市、尼崎市、明石市、西宮市、伊丹市、宝塚市

※兵庫県調査より(平成27年4月)

すぐには一般就労に就くことが難しくても、短時間であったり、ちょっとした支援や配慮があったりすれば働くことができる人にとって、就労訓練事業を実施する事業所の存在は大きな支えとなる。地域の企業や社会福祉法人等による協力が期待されている。

あらためて問われる地域づくりの大切さ

社協としてどう取り組むか

生活困窮者自立支援制度において、「支援を通じた地域づくり」は大きな目標である。

10月15日、自立相談支援事業を実施する7市社協の担当者による情報交換会が県福祉センターで開催された。地域の特性と相談の傾向、任意事業の実施の有無、地域の資源などの状況が異なる中で、自立相談支援機関としてだけでなく、社協として生活困窮者支援にいかに取り組みかが共通の課題として挙げられた。

生活困窮者の多くは、抱えている

リズムが崩れている「社会との関わり」に不安を抱えているなどの理由で、直ちに就労が困難な人とされている。

具体的な支援は「約束の時間に来る」「通う」といったことからスタートすることも少なくない。就労準備支援機関では、本人が担当者と一緒に支援プログラムを考える。「自分のやりたいこと」「できそうなこと」を一緒に考えながら、社会参加の第一歩を後押ししていくことになる。

多様な支援者による

専門性を生かした支援

就労準備支援事業の利用者が、自分の気持ちを伝えたり、相手を理解することに不安がある背景には、メンタルヘルス上の課題や発達障害などがある場合も多い。

尼崎市の就労準備支援事業「就労サポートセンターファイ」は、市内で緑化事業、福祉事業・施設管理等を地域密着型で行い雇用を促進する尼崎市美化推進企業組合と、生きがいごとサポートセンター等で就労支援を行うNPO法人シンフォニーにより共同運営さ



課題が複雑で大きいほど、自ら地域社会と関わりを持つことが困難となり孤立する。同事業では、ニーズキャッチの部分で、民生委員や専門職など地域で見守り支えている人々の「あの家、気になるな」「このままだと大変なことになるんじゃないか」がきっかけで利用につながるケースも少なくない。日頃の地域福祉の実践の積み重ねが功を奏しているといえる。

一人の課題を地域の課題に

また、情報交換会では、支援の仕組みづくりにおいて、関係機関との



自立相談支援事業実施社協情報交換会(10月15日)の様子

れている。職業体験の場を有し、開拓しやすい企業組合と、専門相談や就労準備セミナー等のノウハウを有するNPO法人が互いの強みを生かして支援している。「本来は事業の利用対象となりうる人でも、

就労準備支援事業の対象者の例

- ・ 中学時代のいじめをきっかけに不登校となり、10年以上ひきこもっている
- ・ 人間関係に悩み退職して以来、社会に出るのが不安となり、親の年金を頼り生活している
- ・ 自分はまだにしているつもりだが、職場で注意ばかりされ仕事が続かない

具体的な支援プログラムの例

- ・ 専門家による個別相談
- ・ 生活リズムやコミュニケーションのとり方などを学ぶセミナーへの参加
- ・ 地域の農作業やイベントのボランティア体験、清掃、事務、飲食、介護などの職業体験

連携だけでなく、相談者の地域でのボランティア活動への参加や、地域の事業者による就労支援への協力の必要性も議論された。住民をはじめとした地域福祉関係者の協働である社協にとって、自立相談支援事業の受託の有無に関わらず、これまで培ってきた専門性とネットワークをいかに発揮して地域づくりを進めていくかが問われているといえる。

現在、厚生労働省では、「全世代・全対象型地域包括支援体制」を目指して、誰もが適切な支援を受けられるよう、多分野・多機能の協働による、新たな相談支援システムの構築も検討されており、そのための人材を自立相談支援機関に配置する構想が示されている。

自立相談支援事業に寄せられる相談は、いわば地域の生活課題の縮図である。一人の課題を地域的な課題として考えられるような地域づくりがあらためて求められる。

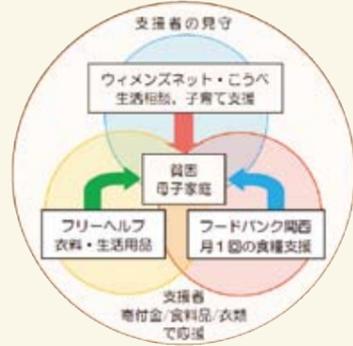
「子どもの貧困」がよくニュースで取り上げられているけど、地域の中には日々のお米にも困っている親子が少なくないんだって。今回は、3つの団体が得意分野を生かして、母子家庭に対する支援を開始した、「子ども元気ネットワークひょうご」の取り組みを紹介するよ。



みんなでつくるひょうごの福祉

地域で支え合い、地域を元気にする取り組みを紹介します。

■図表 ネットワークによる支援の仕組み



厚生労働省の国民生活基礎調査(平成24年)によると、我が国では子どもたちの16.3%、つまり6人に1人が貧困状態に陥っているとのデータが示されている。中でも、母子家庭や父子家庭などのひとり親の世帯では、さらに深刻な経済状況にあると言われている。このように経済的に困窮する母子家庭を支えようと、平成27年4月、県内のNPO法人3団体が連携し、「子ども元気ネットワークひょうご」を立ち上げた。支援の仕組みは、母子家庭の情報把握している「女性と子ども支援センター ウィメンズネット・こうべ」(神戸市)で困窮する家庭を会員と

3団体が連携して支援を展開

各団体の強みを生かして困窮家庭を支援

～「子ども元気ネットワークひょうご」の取り組み～

DVなどの被害に遭っている世帯の場合、母親がシエルターや福祉施設を出た後の就労が難しく、経済的に困窮することがあるが、そのような世帯の情報が支援者に伝わらず、フードバンクやフリーヘルプなどの具体的な支援が届きにくい状況があった。このネットワークを通じて世帯の情報が共有されることで、お互いが持つ強みをつなぎ合わせて連携した支援を行うことが可能となった。現在の登録会員は16世帯。今後は、食料品等の配布だけでなく、母親同士の交流会の開催や子どもたちの学習の場づくりなども行いながら、仲間同士で支え合い、自立への意欲を高めていくことを目指している。



困窮家庭に食料品を届ける(フードバンク関西)

地域で支え合える仕組みづくりを

して登録し、会員が自立して生活できるまでの間、フードバンク関西(芦屋市)が食料品を1カ月に1回、フリーヘルプ(神戸市)が衣類や日用品を3カ月に1回のペースで宅配するというものだ(図表参照)。

取材を終えて

「お菓子ががあると喜ぶんですよ」とボランティアの方が笑顔で語られていたのが印象的でした。我が子に注ぐような視線の中に、困窮家庭を孤立させないという皆さんの力強い意志を感じました。

子ども元気ネットワークひょうご
芦屋市呉川町1-15「フードバンク関西」気付
TEL 0797-34-8330

一方で、NPOだけの支援では限界もある。フードバンク関西代表の浅葉めぐみさんは、「現在提供いただいている量では、全ての困窮家庭に十分な食料品を支援することはできない」と話す。将来的には地域の中で困窮する家庭を把握し合い、支え合いの輪を広げていくことが理想だという。「地域の一人一人がカップ一杯の米を出し合うだけで、支え合うことができる」と浅葉さん。ネットワークの取り組みを通じて、困窮家庭への理解と支援が進み、貧困に苦しむ子どもたちの明るい未来が開けることを期待したい。

「ストップ・ザ・無縁社会」 広がれ! 全県キャンペーン

<http://stop-muen.jp>

「ストップ・ザ・無縁社会」全県キャンペーンの最新情報や、支え合いのメッセージをお伝えします。

TOPICS

今年もふれあいの祭典に出展します!

兵庫県では、毎年1回各地域の持ち回りで「ふれあいの祭典」が実施されており、今年度は「淡路ふれあいフェスティバル」として淡路市内で開催されることとなりました。

全県キャンペーンでは、県民への「支え合い社会」に向けた普及・啓発の場となることを目的として、昨年度に引き続き、同祭典の県政PRコーナーへの出展を行います。当日は淡路の特産品やグルメなどのさまざまなブースも出展されています。ぜひご来場ください!



昨年度も親子連れなどでブース周辺は大いにぎわいました!(豊岡市内で開催)

日時 平成27年11月14日(土)～15日(日)

各日10:00～16:00

場所 淡路ワールドパークONOKORO
動物愛護センター淡路支所(淡路市塩田新島)

推進団体の参画と協賛のお礼

このたび、新たに下記の団体より全県キャンペーン推進協議会への参画の申し出をいただき、推進団体は262団体となりました(10月16日現在)。

新たに参画した団体(順不同)

株式会社昌和、西宮YMCA保育園、
社会福祉法人イエス団 一麦保育園、
社会福祉法人陽気会、
社会福祉法人善照学園善照マイトレーヤ保育園、
幸和園保育所、西宮つとがわYMCA保育園、
社会福祉法人三光事業団

また、キャンペーンに対して以下の団体より協賛をいただきました。心よりお礼申し上げます。

社会福祉法人陽気会 …協賛金1万円
社会福祉法人三光事業団 …協賛金1万円

キャンペーンに寄せられたメッセージ

8月27日に開催した社会福祉夏季大学において、参加者の皆さんからいただいたメッセージの一部をご紹介します!

- お葬式も家族葬が増えて地域のつながりも減っていくなど、地域の文化も無くなってきました。
- 全ての人がある自分ごととして、当事者意識を持って、社会参加していける世の中をつくらせていきたいです。
- 一人一人が地域にどれだけ関わられるか、またそのような地域に関わる場をどれだけ提供することができるか。改めて考えていきたいです。
- 声掛け体制を何重にもつくり上げる工夫が大切です。
- 知らない人でも、エレベーターの中で顔を合わせた時などにあいさつをすることは誰にでもできると思います。
- これからは、実践活動に対する助成などの支援の仕組みが必要です。汗を流す人がやりがいを持続できるシステムを。
- 家族・親戚の関係やつながりを大切に、向こう三軒両隣の地域力を取り戻せたらと思います。
- 自分の役割を見つけよう。「私にできることはない」…? そんなことはないはず。自分にできることを少しすればいい。

キャンペーンにあなたも参加してみませんか?

少子高齢化やライフスタイル・意識の変化、長引く不況などから、家族や地域、職場のつながりや支え合いが薄れているといわれています。このような社会状況は、「無縁社会」と呼ばれています。

「ストップ・ザ・無縁社会」全県キャンペーンは、県内の福祉・経済・労働など分野の異なる18団体を幹事団体として、「無縁社会」への警鐘を鳴らし、県民の皆さんと共に課題を共有して一歩を踏み出すための取り組みです。推進協議会が中心となり、262団体(10月16日現在)の推進団体とともに、情報発信や地域フォーラムなどの事業を展開しています。あなたにできることから、一歩を踏み出してみましょ!

全県キャンペーンホームページ
<http://stop-muen.jp/>

ストップザ無縁社会 検索

いきいきアクティブライフ

シニア世代が地域住民の一員としてアクティブに活動しているグループなどの事例を紹介します。



小さな集落でもみんなが集まればできることがある! ～「丸味げんき村」の取り組み～

特産品づくりを通じて集落の活性化を

香美町村岡区の丸味地区は、12世帯のうち大半の世帯で農業や牧場を営み、高齢者が半数近くを占める過疎の集落だ。同地区では、兵庫県が実施する小規模集落元気作戦のモデル集落として平成23年に選定されたのをきっかけに、時間に余裕がある高齢者が主なメンバーとなって「丸味げんき村」が結成された。「もともと地区の人々の交流が活発ではなく、お祭りのときだけ集まる状況だったので、何をやるか話し合うだけで3年近くかかりましたよ」と話すのは「村長」の森脇薫明さん。それでも、「高齢化が進み、地域の元気がなくなっていく」との危機感から、特産品づくりによる村おこしを進めることになった。

みんなの知恵と豊かな自然を生かして

町の担当者や県から派遣された小規模集落元気アドバイザーなども話し合いに加わる中で、当初はなかなか良いアイデアが出ず、前に進むことができなかったというが、メンバーみんなで試行錯誤を繰り返した結果、ようやく生まれたのが「みょうがずし」だ。丸味地区でミョウガが自



ミョウガの仕上げ作業。楽しいおしゃべりの時間です

生していることに着目し、地元の堆肥を使った丸味産コシヒカリと組み合わせると、「おいしい」とメンバーの評価を得て商品化が決定。当初は俵型だけだったが、丸味地区にちなんで丸みを帯びた形を追加するなど、遊び心も加わった。

みんないつまでも “げんき”でいられますように

「ミョウガを晩夏に収穫してから加工・保存するまでの作業は、メンバーの大切なおしゃべりの時間。身体を動かすことやいっぱいお話をすることで、いつまでも“げんき”でいてもらえます」とお世話役の奈良洋子さんは笑顔で話す。



「おいしい!」と評判の「みょうがずし」

げんき村では主に但馬地域のイベントに出店し、月1～2回「みょうがずし」の販売を行っている。また、冬には休耕地で栽培した甘くて皮まで食べることができる「雪わり大根」の販売を併せて実施。春にはワラビ摘みやタケノコ狩りを行い、都市から訪れた人々との交流も重ねている。「頻繁な出店や大人数参加のイベントは体力的に難しいので、できることをゆっくりやっていきます」と話す森脇村長。シニア世代の皆さんが四季を通じて展開する取り組みの中から、“げんき”の輪が着実に集落に広がっている。

取材を終えて

丸味げんき村メンバーの皆さんの「大好きな丸味がいつまでも“げんき”であってほしい」との想いが大変よく伝わりました。メンバーだけでなく、外部からの“応援団”との交流も、良い刺激になっているようです。

団体の概要

「丸味げんき村」
美方郡香美町村岡区丸味808(丸味地区公民館)
URL <http://kaa-mii.wix.com/marumi>

このコーナーでは、県内の社協職員など“地域福祉を進める人々”の活動を取り上げながら、ワーカーとしての想いを伝えます。

地域を駆ける!
ワーカー物語

「地域のつながりがりづくりや 見守り活動を広めたい!」

心に残るエピソードは?

担当している給食サービス事業で一人暮らしの90代の利用者さんがいらっやいました。ボランティアさんに代わって私が訪問した際に「体調が悪い」とおっしゃるので、病院に行くよう声を掛け、家族や配食ボランティア、ヘルパーの方などにも状況をお伝えし、毎日声掛けをしていただいていた。しかし数日後、その方は自宅で亡くなられ、翌日に発見されました。

これまで、高齢の方が、自宅で一人亡くなっておられると聞くと、「孤独死「よくないこと」と考えていましたし、あの時もっと何かできたのではないかとこの思いもあります。でもこの方は、誰かに最期をみとられることはできなかつたけれども、住み慣れた自宅で亡くなる直前まで家族や地域の方に見守られ、また、亡くなっていることにもすぐに気付

いてもらえた。この方は地域の誰かと確かにつながっていたんだということを感じました。普段のつながりや地域での見守りの必要性を改めて強く実感した出来事でした。

力を入れた活動は?

お互いに見守り合える関係づくりに向けて、区長や民生委員等呼び掛けて「小地域福祉活動研修会」を開催し、住民の方の孤立を防ぐための呼び掛けや取り組みに力を入れたいと思っています。これまでは、



お互いに見守り合える関係づくりを(小地域福祉活動研修会の様子)

日常生活自立支援事業

業の担当として、個人の生活を支援することに重点を置いていましたが、これからはもつと地域に出て、活動されている人の声を聞きながら暮らしの実態をよく見たいと思っています。そして、地域での見守りなどを始めとした活動が少しでも広がるように、自身のアンテナを高く張り、住民の方と一緒に地域の課題の解決策を探ってまいります。

大切にしていることは?

住民の方からの相談は、似たような内容ではあっても、その背景や思いは決して同じではありません。「前も同じ相談を受けたから」と軽んじることがないように、心して相談を受けるようにしています。気軽に相談してもらえらるよう、顔を覚えてもらうことと、相談しやすい雰囲気づくりを心掛けています。また、住民の方や職場の仲間を含めた周囲の



加東市社会福祉協議会
つのだ くみこ
角田 久美子さん

Personal History

- 29歳 まちの子育てひろば推進員として社町社協(現加東市社協)に入局
- 31歳 合併後、地域福祉係に配属され、日常生活自立支援事業担当
- 39歳 地域福祉課課員として、小地域福祉活動、心配事相談等も担当

方との距離感を大切にし、よい意味で緊張感がある関係でいたいと考えています。

取材を終えて

相談を受けた後のきめ細やかなフォローなど、責任感の強さを感じさせる角田さんは、異業種から社協に転職されました。「福祉に介護というイメージだったけれど、社協は多面的で面白い!」と語っておられるのが印象的でした。

丹波市で「社会福祉
法人連絡協議会」を
設立！

9月2日、丹波市内に事業所を置く社会福祉法人17法人が集い、「丹波市社会福祉法人連絡協議会」設立総会が開催され、来賓として辻丹波市長らも出席して規約等が承認された。

本会と兵庫県社会福祉法人経営者協議会では、社会福祉法人が市区町域でネットワークを組んで「地域公益活動」に取り組む方向で進めており、県内では昨年度の南あわじ市・神戸市垂水区に続いて3例



社会福祉法人のネットワークで地域課題の解決を！(設立総会の様子)

目となった。

設立総会では、会長に澤村安由里氏(山路福祉会)を選出し、副会長4名のほか、監事・事務局などを選任し、規約と事業計画等が承認された。今後は、役員会・代表者会議や講演会・学習会を開催し、社会福祉法人が解決に向けて取り組むべき生活・福祉課題を把握し、多くの法人が種別を超えたネットワークにより課題解決に向けた取り組みを進める。

丹波市でも、人口減少や高齢化が進み、単身世帯や空き家が増加しており、地域でのつながりも薄くなる中で、新たな仕組みづくりが課題となっている。

今後は、社会福祉法人の公共性や専門性を発揮し、地域住民の福祉ニーズに応えていくため、行政や地域団体と連携しながら、福祉相談窓口の開設や災害支援などの取り組みを検討していく。

理事会・評議員会を開催

10月21日、兵庫県社協の第239回理事会、第185回評議員会を開催した。
当日は、平成27年度の間事業

赤い羽根共同募金運動
展開中！(～12月31日)

今年で69年目を迎える赤い羽根共同募金運動がスタートしました。本県では「やさしさ」が必ずとどく赤い羽根のスローガンを掲げ、5億4803万3000円を目標に募金運動を行います。集められた募金は地域の福祉活動や社会福祉施設、災害時の被災者支援の活動などに役立てられます。

10月1日には、神戸元町商店街でオープニングセレモニーを開催。厚生労働大臣および中央共同募金会会長メッセージの伝達式や神戸市長田区の近



園児が元気にパレードを盛り上げました



神戸・清盛隊と募金の使いみちを紹介!

田幼稚園による鼓隊パレード、来賓・参加者による啓発活動を行い、多くの方へ共同募金運動のスタートが周知されました。
共同募金は県民の誰もが参加できる地域福祉活動です。今年も、皆さまのご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

募金百貨店プロジェクト
新しい寄付のカタチ

企業等が寄付付き商品・企画を実施する赤い羽根共同募金の「募金百貨店プロジェクト」。このたび、今年創業100年目を迎える南京町の「老祥記(豚まん発祥の店)において、10月1日～11月15日の間の売上げの1%が共同募金に寄付されま

す。寄付金は、神戸市中央区共同募金委員会を通じて、「外国にルーツを持つ子ども」の学習支援「など、中央区内の地域福祉活動の財源に役立てられます。



「老祥記」との覚書調印式(9月30日)

みんなの広場

兵庫県社協の会員からの情報発信コーナーです

県内社協で初めて募金百貨店に参加!

社会福祉法人 猪名川町社会福祉協議会

猪名川町社会福祉協議会が運営する多機能型事業所「希望の家すばる(就労継続支援B型)」では、通常1袋200円で販売している手作りクッキーを、10月の期間限定で「赤い羽根手作りクッキー」として販売しました。

これは、県共同募金会が推進する「募金百貨店プロジェクト」として実施したもので、オリジナルのチラシを作成し、町民に呼び掛けてたくさんの方々にご購入いただき、売上1袋につき10円を猪名川町共同募金委員会へ寄付しました。

クッキーの販売を通じて、赤い羽根共同募金の啓発を行うとともに、事業所を利用している障害者の方自身が地域貢献を体験し、まちづくりへ興味を持てるよう、県内の社会福祉協議会として初めてこのプロジェクトに参加することとなりました。

猪名川町社会福祉協議会では、障害者福祉に関する啓



手作りクッキー製造の様子



オリジナルチラシ

発や交流イベント活動などを実施しており、これらの活動にも共同募金の配分の一部が活用されています。

猪名川町に住むみんなが支え合い、にぎわいのある地域をつくるために、さまざまな機会を通じて「人の輪」を広げ、仲間づくりに取り組んで参りたいと考えています。

連絡先 猪名川町社会福祉協議会
〒666-0236 川辺郡猪名川町北田原字南山14-2
TEL 072-766-1200 FAX 072-766-8511
URL <http://www.inagawa-syakyu.or.jp/>

避難サポートひょうごが大交流会を開催!

東日本大震災から4年半が経過したが、県内にはまだ多くの避難者が生活している。そんな避難者同士の交流を深めようと、避難者を支援するネットワーク「避難サポートひょうご」による大交流会が、9月5日に芦屋市の木口記念会館で開催された。

さらに、10月より通知が開始されているマイナンバー制度について、マイナンバーを含めた「特定個人情報」の取扱規程の制定についての議決が行われた。今後、同規程に基づき、必要な安全管理措置を図っていく。



復興への願いを込めた歌に聞き入る参加者たち

当日は避難者をはじめ、支援に関わる弁護士や臨床心理士等の専門家、支援団体の関係者など約100人が参加した。会場では相談コーナーやマッサージコーナー、交流スペースでのお茶会などで話の輪が広がり、また歌やレクリエーションなど子どもが参加できる催しも行われ、大盛況となった。
震災から時間が経過し、活動を休止する当事者グループも出てくる一方で、避難者の多くは仕事や住まい、子育てなどさまざまな悩みを抱えている。今後も避難者の声に耳を傾けながら、息の長い支援が求められる。

アピールしたい活動の
情報をお寄せください。

問い合わせ

兵庫県社協 総務企画部 TEL 078-242-4633 FAX 078-242-4153 E-mail info@hyogo-wel.or.jp

助成金情報

福祉活動等に対する助成金の情報です。詳細は、それぞれの問い合わせ先にご確認ください。

JT NPO助成事業

地域コミュニティの再生と活性化につながる事業に助成します。

対象 1年以上の活動実績がある非営利法人で、平成28年4月1日～平成29年3月31日までに実施を予定している事業

助成額 1件上限150万円(45件程度を予定)

締切り 平成27年11月20日(金) 必着

☎☎日本たばこ産業株式会社

TEL 03-5572-4290

URL <http://www.jti.co.jp/>

公益財団法人大阪コミュニティ財団 2016年度(平成28年度)助成

さまざまな分野の社会貢献活動に助成します。

対象 1年以上の活動実績がある非営利法人(法人の有無は不問)で、平成28年4月1日～平成29年3月31日までに実施を予定している事業

助成額 各分野により異なる

締切り 平成27年11月30日(月) 消印有効

☎☎公益財団法人大阪コミュニティ財団

TEL 06-6944-6260

URL <http://www.osaka-community.or.jp/>

公益財団法人ヤマト福祉財団

①障がい者給料増額支援助成金

既に障害者の給料増額に一定の実績がある施設・事業所(ジャンプアップ助成金)や全国平均以上の給料支給実績がある施設・事業所(ステップアップ助成金)に対し、事業資金を助成します。

対象 就労継続支援A・B型事業所、福祉工場、地域活動支援センター、生活介護事業所で一定の条件を満たすこと

助成額 【ジャンプアップ助成金】1件定額500万円(最大15件程度を予定)、【ステップアップ助成金】1件上限200万円(25件程度を予定)

②障がい者福祉助成金

障害者福祉に関する事業に助成します。

対象 会議、講演会、研修、出版、啓発、調査、研究、スポーツ、文化事業で平成29年2月15日までに完了する事業

助成額 1件上限100万円(総額500万円)

締切り ①②とも平成27年11月30日(月)消印有効

☎☎公益財団法人ヤマト福祉財団

TEL 03-3248-0691

URL <http://www.yamato-fukushi.jp/>

募集

公益財団法人畑崎財団 畑崎記念ファッションブルエージング賞

年を重ねても明るく健康で内面が充実した生き方を実現するため、有意義な地域活動を行う個人・団体やそれらを支援する個人・団体に授与します。

対象 県内の個人・団体または県内にゆかりのある個人・団体

賞 健康づくり分野、知的活動分野、社会奉仕活動分野:1件につき50万円

締切り 平成27年11月30日(月)

☎☎公益財団法人畑崎財団

TEL 078-221-1919

URL <http://www.hatasaki-found.or.jp/>

社会福祉法人兵庫県共同募金会 共同募金70年記念

「赤い羽根ひょうごスローガン」の募集 赤い羽根共同募金運動の70年目にあたり、スローガンを募集します。

募集内容 共同募金運動を地域の中で盛り上げていくスローガン

応募資格 県内に在住・在勤・在学する人

応募方法 応募作品に氏名等を明記の上、郵送・FAX・電子メールで応募

賞 最優秀賞1点(賞金5万円)、優秀賞5点(賞金1万円)

※高校生以下の児童・生徒は図書カード

締切り 平成27年12月31日(木)消印有効

☎☎社会福祉法人兵庫県共同募金会

TEL 078-242-4624

URL <http://www.akaihane-hyogo.or.jp/>

研修・イベント

KSCマジッククラブ・同好会 第13回マジックの祭典

日時 平成27年11月7日(土) 13:00～16:00

会場 たんぼの家2階多目的ホール(神戸市北区)

入場料 無料

☎☎神戸市シルバーカレッジマジッククラブ・同好会

TEL 078-821-7624

一般社団法人兵庫県理学療法士会

第55回近畿理学療法学会 市民公開講座

日時 平成27年11月21日(土) 16:00～19:00

会場 神戸国際展示場2号館

入場料 無料(事前受付は無し)

内容 特別講演「認知症ケアにおけるユマニチュードー見る・話す・触れる・立つー」ほか

☎株式会社コンベンションアカデミア

TEL 06-4708-8003

行事予定

11月 3日 介護保険改正とこれからの地域づくりを考える全国フォーラム ◆神戸大学統合研究拠点

10日 サービス提供責任者研修会(基礎編) ◆県福祉センター

10日・26日 福祉の就職説明会 AUTUMN in HYOGO ◆姫路商工会議所ほか

11日 若年性認知症家族介護者連絡会 ◆県福祉センター

13日 社会福祉法人の『地域公益活動』推進セミナー ◆神戸国際会館

17日 災害ボランティアコーディネーター養成研修 ◆ひょうごボランティアプラザ

19日 生活支援コーディネーター養成研修 ◆姫路市自治福祉会館

24日 福祉サービス利用援助事業生活支援員研修(現任) ◆県福祉センター

26日 福祉の就職説明会 AUTUMN in HYOGO ◆神戸サンポーホール

28日 前頭側頭型認知症の家族交流会・家族介護者研修 ◆県福祉センター

29日 介護福祉士受験セミナー ◆県社会福祉研修所

12月 1日 退職共済実務研修会 ◆シーサイドホテル舞子ビラ神戸

2日～ 兵庫県内社協会長連絡会議 ◆南淡路ロイヤルホテル

4日 生活支援コーディネーター養成研修 ◆垂水年金会館

7日 経営協近畿ブロックセミナー ◆ANAクラウンプラザホテル神戸

10日 会計実務担当者研修・実践編(予算・決算コース) ◆県社会福祉研修所

12日 若年性認知症支援担当者研修 ◆兵庫県看護協会

15日・16日 相談面接技術研修 初級Bコース ◆県社会福祉研修所

15日～ 介護支援専門員 実務従事者基礎研修 ◆県社会福祉研修所ほか

17日 福祉サービス利用援助事業専門員研修・専門員会議 ◆県福祉センター

18日 経営協第236回理事会 ◆県福祉センター

21日 県社協第240回理事会・第186回評議員会 ◆県福祉センター

丸大食品

心に残る贈り物

丸大のギフトは、どなたにも喜ばれます。

お中元・お歳暮には、多くの各会員の皆様にご好評を頂き、誠にありがとうございます。当社では中元・歳暮用以外にも快気祝等のご進物用としてのご利用も承っております。今後とも宜しくご用命賜ります様、お願い申し上げます。



たっぷりの時間をかけて熟成させた最高級ハムギフト(HA-502)

丸大食品株式会社 中日本特販営業課

〒557-0063 大阪市西成区南津守2-1-10 TEL06(4398)3038 FAX06(4398)3063

「兵庫県福祉手帳2016」 予約注文受け付け中!

社会福祉関係資料

兵庫県福祉手帳

兵庫県福祉手帳<2016年度版>が12月上旬発売予定です。カレンダーのほか、県内の福祉関係機関一覧を掲載しており、福祉関係者必携!

※民間社会福祉事業職員互助会の加入者には互助会より配布されますので留意ください。

2016

[サイズ]ヨコ9cm×タテ15cm [価格]970円(税込)

申し込み・問い合わせ先 兵庫県社協 総務企画部 TEL078-242-4633